資料２

政策・総務・財政委員会資料
令 和 ６ 年 ２ 月 １５ 日
政　　策　　局

横浜市立大学附属２病院・医学部等の再整備について

１　趣旨

横浜市立大学附属２病院と医学部等の再整備については、令和２年度策定の再整備構想の方向性を踏まえ、附属２病院を１つに集約した病院（以下「新病院」という。）と医学部の教育・研究施設（以下「医学部等」という。）を、最有力候補地の米軍根岸住宅跡地（以下「根岸住宅地区」という。）に一体的に整備することとして、基本計画の検討を行ってきました。

その中で、具体的な課題を検討した結果、今後、新病院は浦舟地区、医学部等は根岸住宅地区に整備することを基本として、基本計画の策定を進めます。

２　検討経過

平成 30 年度　横浜市立大学が「附属 2 病院再整備構想の方向性」を策定

令和２年度　市が「横浜市立大学医学部・附属 2 病院等の再整備構想」を策定

➢再整備の方向性　○２病院を１病院に集約
○病院と医学部等を一体的に整備
○根岸住宅地区を最有力候補地として検討　等

令和３年度　「横浜市立大学医学部・病院等再整備事業　市・市大ワーキングボード」を設置し、市と市大が一体となって検討を開始

➢令和４年度の取組　○事業費、事業手法、交通アクセス等の検討、交通量等実態調査を実施

➢令和５年度の取組　○交通アクセスの課題や建築資材高騰を踏まえ、複数の候補地について検討開始
○新病院は浦舟地区に、医学部等は根岸住宅地区に整備することを基本として、基本計画の策定を進めることを、市と市大で確認

３　検討内容

整備案		メリット	デメリット
現行案 新病院、医学部等を根岸住宅地区に一体整備	△	・新病院、医学部等を更地の同一敷地内に一体的に整備可能	・新病院整備による渋滞の抜本的な解消ができず、救急車両のアクセスに支障 ・バスの大幅な増便が必要 ・根岸住宅地区に新病院、医学部等の土地取得費が必要
新プラン 新病院を浦舟地区に整備し、医学部等を根岸住宅地区に整備	○	・市内広域から救急車両のアクセス確保が可能 ・複数の公共交通機関が利用可能で患者等の利便性が高い。 ・新病院整備のための新たな土地取得費が不要	・新病院と医学部等が約１キロメートル離れる対策が必要
浦舟地区案（南区） 浦舟地区に一体整備	×	・新病院のメリットは上記と同様	・敷地内で全施設の整備は困難
福浦地区案（金沢区） 福浦地区に一体整備	△	・新病院と医学部等の施設が同一敷地内に一体的に整備可能 ・土地取得費が不要	・高度救急救命センター、特定機能病院は、全市域からアクセスしやすい立地が望ましい。 ・液状化等自然災害の対策が必要

4　新プランの課題と解決の方向性

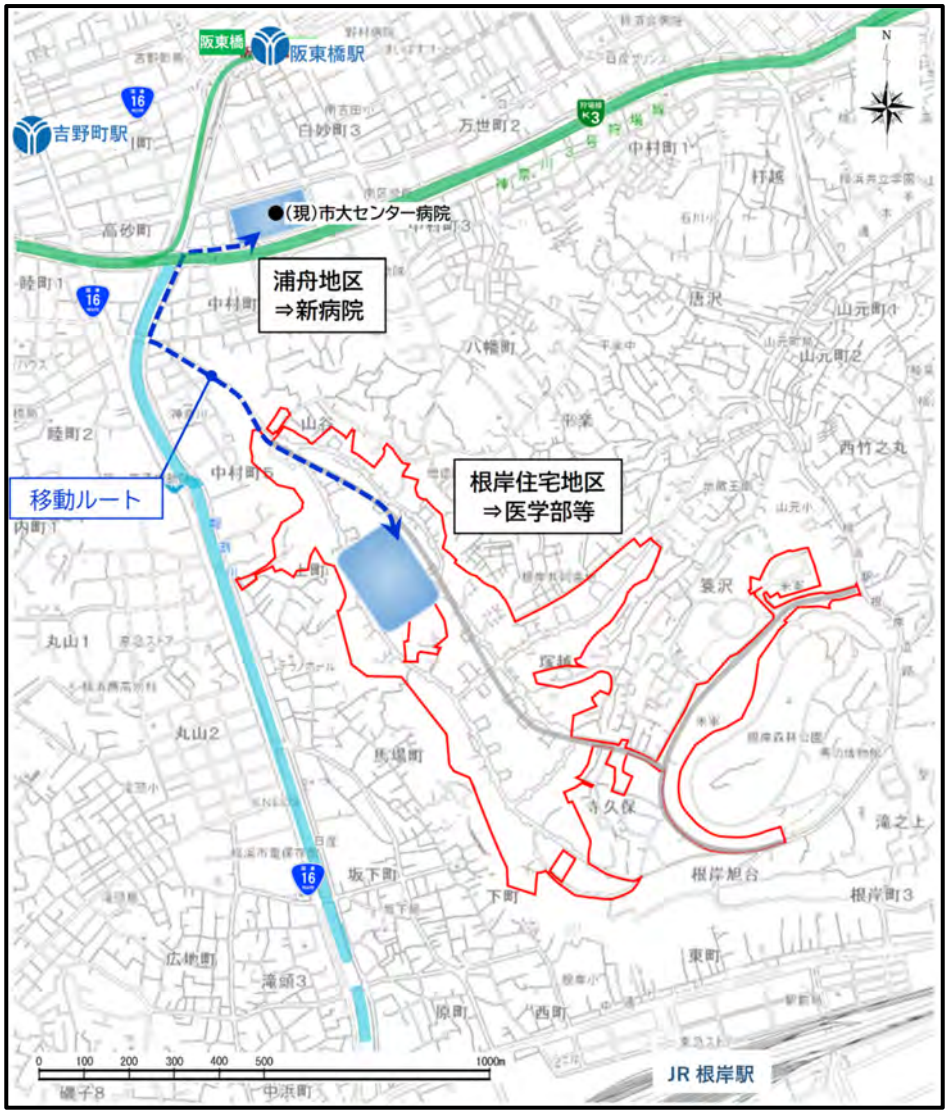
浦舟地区の新病院と根岸住宅地区の医学部等が、約１キロメートル（車：約４分、徒歩：約 15 分）離れるという課題について、次の対策を検討します。

《検討事項》

(1) 臨床研究を行う一部の研究室の新病院内での確保を検討

(2) 医師・学生の控室及び講義室の新病院内での確保を検討

(3) 新病院と医学部等の移動手段として、シャトルバス等の検討

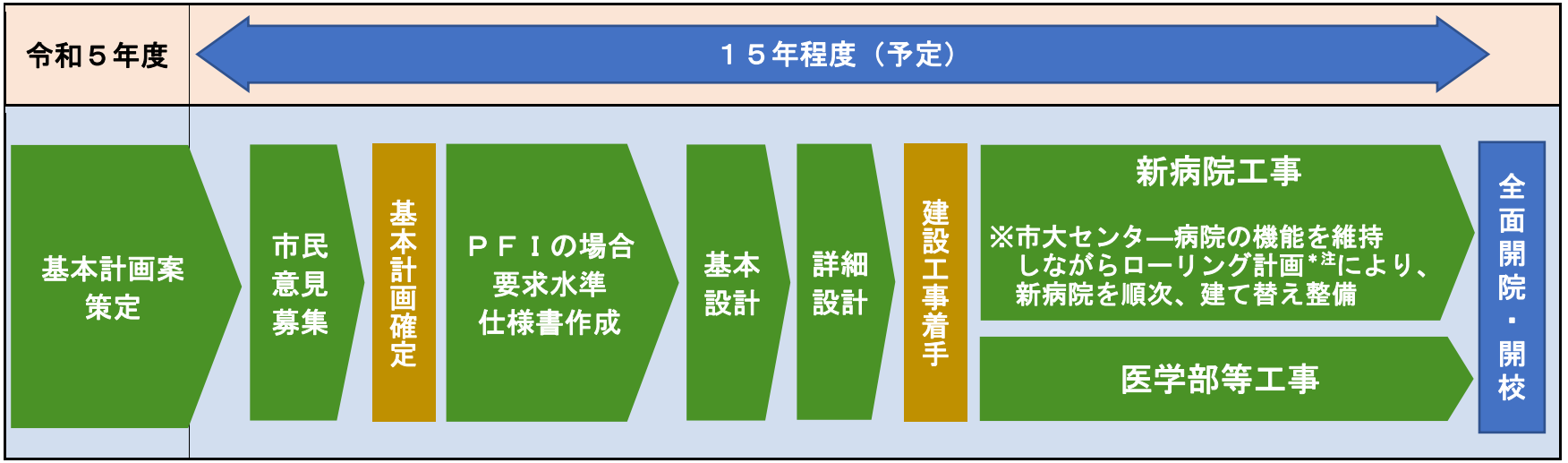


５　今後のスケジュール

(1) 基本計画

前提条件の見直しに伴い、令和６年度に基本計画案策定、令和７年度に市民意見募集を経て確定

(2) 全体スケジュール



＊注　『ローリング計画』　病院機能を維持しながら、部分的に解体→建設→移転を繰り返して最終的に工事を完了する計画

・具体的な工事期間については、工法を含め、基本計画の中で検討

・老朽化により再整備の必要性と緊急性が高い、市大センター病院救急棟などの早期整備を検討

【参考１・検討した候補地の状況】

浦舟地区



敷地面積:18,826 ㎡
延床面積:83,294 ㎡
竣工年　:本館 H11、救急棟 H 元
病床数　:726 床

福浦地区



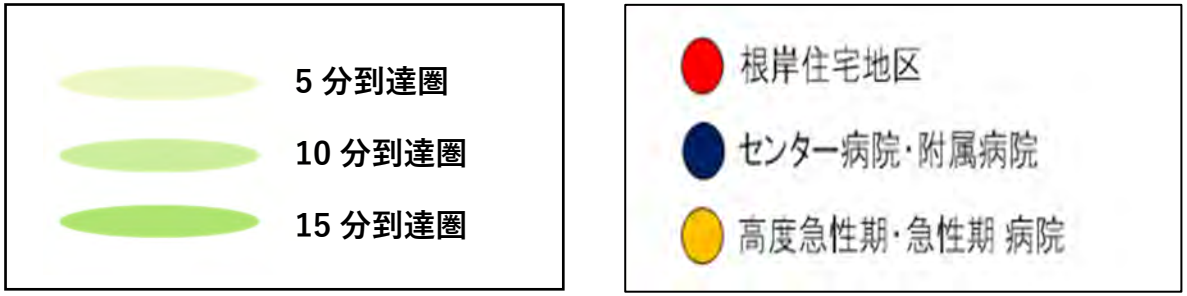
敷地面積:94,470 ㎡
延床面積:112,734 ㎡
竣工年　:医学部 S61、附属病院 H3、
　　看護教育研究棟 H6
病床数　:674 床



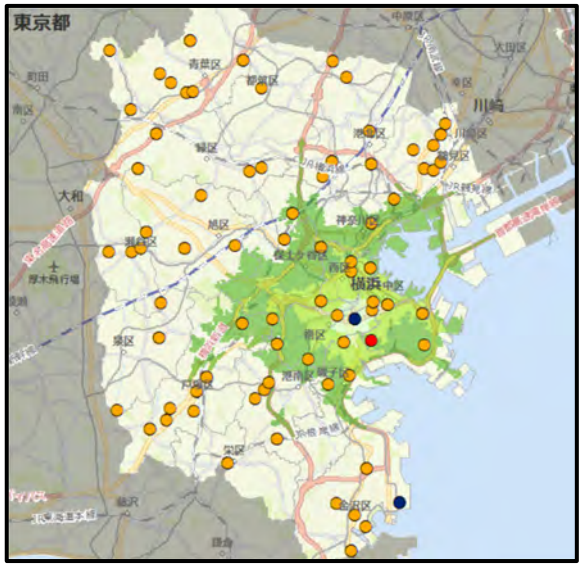


面積　:約 43ha　（国有地:約 27ha、
　　民有地:約 16ha）
標高　:約 50m
土地利用計画　:文教ゾーン、
　　住宅地ゾーン、
　　森林公園ゾーン

【参考２・候補地からの車両到達圏】



浦舟地区



根岸住宅地区



福浦地区

